

中学 1 年 4 組 英語科学習指導案

指導者 高 田 純 子

ペアで自己紹介し合い、得た情報をもとに相手（パートナー）を別の友だちに紹介するという思考・判断したことを表現する言語活動を設定したことは、be 動詞と代名詞を適切に運用する力を高め合うことに有効であったか

1 単元名 Unit 2 ～友達を紹介しよう～

2 授業の構想

(1) 中学校 1 年生の 1 学期は小学校の外国語活動を中学校の教科としての英語へとつなげる橋渡しとなる接続期にある。この時期に小学校の外国語活動において音声で理解してきたことを文の構造やルール（文法）の面からとらえる、つまり言語を分析的にとらえる段階へとスムーズに移行する必要がある。よって、まず、入学してから 1 カ月間は今まで音声でとらえてきたアルファベットを文字として認識させ、文字の組み合わせで単語や文の音が作られていることを意識させるような指導を中心に行ってきた。そしてこのような音声の学習を基礎として、単語から文の学習へのなめらかな移行を図ってきた。生徒は単語や短い文を聞いて、その音を文字と結びつけ、書きとることができたり、初めてみる単語や文などでも音のルールに従ってそれらしく発音することができるようになってきている。

「Unit1 ようこそ、グリーン先生」では、あいさつを交わして自己紹介をし、相手のことをさらに知るために質問をする言語活動を行った。自分のことを紹介する場合と相手に質問する場合では主語になる代名詞と be 動詞を使い分ける必要がある。また、相手に質問する場合には疑問文を用いなければならない。語順を理解している必要がある。この活動において自己紹介の場面ではほとんどの生徒が正しく代名詞と be 動詞を使い分けて自己表現することができたが、相手に質問する段になると語順があいまいになり、肯定文を用いて質問している生徒もいた。さらにこの活動で用いた表現を書かせてみたが、綴りを間違えたり、音声では表現できていた生徒も文字としては正確に表現できないという実態があった。小学校の外国語活動で音に慣れ親しんできているので、音声で表現することには抵抗はないように思われるが、正確に文字として表現すること、語順の習得にはさらなる継続的な指導が必要だと感じている。

本学級は、男子 17 名、女子 17 名、計 34 名から構成されている。全体的に元気がよく、思ったことを素直に発言できる雰囲気があり、挙手発言も多く学習にも前向きである。しかし一方で、集中力が持続しにくい生徒もおり、個人的な言動で他の生徒の学習のペースを乱す場面もある。自分の思いを臆せず表現できる、分からないところを遠慮せずに友だちに聞き合える雰囲気を大事にしなが、学び合いの根底にある一人ひとりが支え合える学級づくりを行っている最中である。

(2) 本単元は、それまでの一人称、二人称に加えて三人称の概念を理解し、性別によって代名詞を使い分け、適切に人や物を紹介できる力を養うことをねらいとしている。前単元である Unit1 において自己紹介したり、相手に質問をしたりする言語活動を行っており、一人称、二人称の使い分けとそれに伴う be 動詞の一致について学習している。よって本単元の Part3（本時）では、ペアで自己紹介し合い、得た情報をもとに相手（パートナー）を別の友だちに紹介するような、場面に応じて思考し、判断したことを表現するような言語活動を設定する。既習事項である一人称、二人称の代名詞と be 動詞の一致の知識の自動化を図り、運用レベルに高めるとともに、紹介する相手によって代名詞を正確に使い分けて、身ぶりや表情などを意識しながら適切に人を紹介できる表現力を習得させたい。このようなかわり合いを通して、本校英語科が願う「他者とのかわり合いを通して、基礎的・基本的な知識や技能を高め合い、探求心をもってさらなる自己の伸長を図る生徒」に近づけるのではないかと考える。

(3) 本単元の Part1 で this/that を用いて、近くにあるものや遠くにあるものを指し示しながら説明する表現を学習する。Part2 では it を用いて、話題になっているものを受けて Yes/No で答えたり、さらに説明を加えたりする表現を学習する。ここで、指示代名詞の知識理解の定着を図りたい。また Part2 では冠詞 a も新出事項ではあるが、ここでは理解の程度にとどめておき、不定冠詞 an と定冠詞 the の学習の際に繰り返し学習して定着を図ることとする。Part3 (本時) では新出事項だけを用いる言語活動ではなく、既習の表現を共に用いることでその使い分け(運用)を意識させ、意味内容の伝達にも重点をおいた言語活動を取り入れる。この活動では、まず最初にペアで自己紹介したり、質問したりする活動を通してお互いのことを知る機会とする。自己紹介と質問のやりとりをする場面では、自分の思いを伝えるためにはどのような表現(構文)を用いるのかを思考し、代名詞(主格・所有格)と be 動詞を正確に選択して(判断力)、自分の思いを適切に伝える表現力が育成される。一方、自己紹介を聞く際にも既習の表現の選択肢の中から、相手が何を伝えようとしているのかを判断し、思考する。そしてうなずいたり、表情で相手に共感を示す。その後で学びを広げ、得た情報をもとに自分のパートナーを別の友だちに紹介する場面を構想する。ペアでの学びを別のペアへとつなげるのである。この場面でも友だちを紹介する生徒は、人を紹介する時に必要な表現を思考し、紹介する友だちに応じて代名詞を適切に使い分け(判断)、ジェスチャー、表情、アイコンタクトなどを用いて適切に友だちを紹介する表現力が養われると考える。同じように紹介を聞く生徒も、思考・判断を繰り返しながら新しい友だちについての情報を正確に聞き取ることとなる。

本時は生徒一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を活用して、思考・判断したことを表現する言語活動を設定した。この言語活動を通して、生徒が他とのかかわりの中で、基礎的・基本的な知識を活用することができたという思いを抱くことが大切である。この思いが個の学びへと還元されて個のさらなる基礎・基本の定着にもつながる。そこで、教師は個が自分の言いたいことを表現できるよう、コミュニケーションを支える文法の基礎的・基本的な知識を定着させるための時間を本時の前半でしっかりと確保する。そして本時の終末には、知識を活用して適切に友達を紹介できていた生徒の様子を取り上げたり、生徒のふりかえりから自分の言いたいことを表現できてうれしかった、自分の言ったことが相手に通じたという思いを取り上げたりという教師のはたらきかけにより、これらの思いを学級全体で共有し、次の学習への意欲につなげたい。

3 展開計画(全6時間 本時6/7)

次	主な学習	時	具体的な学習・内容(◇印は、学級全体の学び合いの場面)
1	身の回りのものについて説明しよう。	1.2	<ul style="list-style-type: none"> ・指示代名詞の働きを知る。 ・This(That)is...の文の形・意味・用法を理解し、表現する。 ・This (That)is...を用いて、身の回りのものについて説明する。
2	身の回りのものについて質問しよう。	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・Is that (this)...?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現する。 ・Is that (this)...?を用いて、身の回りのものについて質問する。
3	友だちを紹介しよう。	5 ⑥ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞の働きを知る。 ・He(She)is...の文の形・意味・用法を理解し、表現する。 ◇友だちを紹介する活動を通して、代名詞と be 動詞を適切に運用できるようになるとともに、相手を意識しながらジェスチャー、アイコンタクトなどを用いて適切に友達を紹介する。 ・パフォーマンステスト

4 「学び合い」による思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
3	3	友だちを紹介しよう。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 「外国語表現の能力」 語句や表現，文法事項などの知識を活用し，相手を意識して適切に友だちを紹介している。	活動の観察 ワークシート (本時 2/3) パフォーマンス テスト (3/3)	聞き手と紹介する友だちと目を合わせた り，身ぶり手ぶりを交えた りしながら正しい表現を用いて友だちを紹介している。	正しい表現を用いて友だちを紹介している。	語句や表現，文法事項などの知識を活用できず，友だちを紹介することができない。

5 本時の学習

(1) ねらい

一人称，二人称の代名詞と be 動詞の一致の知識を運用レベルに高めるとともに，紹介する相手によって代名詞を正確に使い分けて，身ぶりや表情などを意識しながら適切に人を紹介することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. 本時の流れとめあてを確認し，本時の学習の見通しをもつ。	本時の見通しがもてるように，1時間の授業のスケジュールを提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>友だちの輪をひろげよう！ 紹介する相手によって代名詞を使い分けて、自分のパートナーを友だちに紹介しよう</p> </div>	
2. 代名詞カルタで代名詞のふりかえりを行う。	人称・数・代名詞の一致を意識せずに瞬間的に判断して使えるようにするために（知識の自動化・無意識化）代名詞カルタを用いる。
3. He(She)is...の文の形・意味・用法を確認し，表現する。	相手を意識しながら第三者を紹介できるようペアで口頭練習を行う。
4. 代名詞と be 動詞の使い分けを確認する。 自分のこと（自己紹介）I'm... 相手のこと（質問をする）Are you...? 第三者のこと（紹介する）He / She is....	代名詞と be 動詞の一致についての知識・理解を活用できるよう，具体的な使用場面を掲示して意識させる。

<p>5. 友だちの輪を広げよう！</p> <p>モデルパフォーマンスを行う。</p> <p>① ペアで自己紹介して相手の情報を収集する。 (I'm... I'm from...) (Are you...? What's your favorite...?)</p> <p>② 得た情報をもとに自分のパートナーを別の友だちに紹介する。 (This is ... He / She is... His / Her favorite...is~.)</p> <p>6. 友だちの紹介カードを作成する。</p> <p>7. 友だちを紹介する。</p> <p>8. 学習をふりかえる。 ・代名詞と be 動詞を正しく使って友達を紹介することができた。 ・友達のことが分かった。 ・自分を紹介してもらえてうれしかった。</p>	<p>生徒が活動に見通しがもてるようモデルを示す。</p> <p>◎声の大きさやアイコンタクトなど、自己紹介や相手に質問をする際に必要な視点を取り上げて全体に提示し、各自のパフォーマンスを向上させるきっかけにする。</p> <p>友だちを紹介できない場合には、ペアに伝えたい内容を聞き返したり、友だちからアドバイスをもらったりして自分の思いを伝えるよう声をかける。</p> <p>友達の紹介カードを書いて、口頭で表現した内容のさらなる定着を図る。</p> <p>◎学級全体に友だちを紹介する場面を設けて、友だちの輪を広げるとともに、代名詞の使い分けを確認して、英語で表現できたという喜びを学級で共有できるような声かけを行う。</p> <p>各自のパフォーマンスを振り返り、次への課題を見つけるよう促す。</p> <div data-bbox="833 1317 1407 1599" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p style="text-align: center;">【 活動の観察 】</p> <p>「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 相手を意識して適切に友だちを紹介している。</p> </div>
--	--

本時では「外国語表現の能力」についての評価は行わず、後日パフォーマンステストで評価を行う。右はパフォーマンステストの評価の観点である。

<p>評価の観点</p> <p>【 パフォーマンステスト 】</p> <p>「外国語表現の能力」</p> <p>語句や表現、文法事項などの知識を活用して、正しい表現を用いて友達を紹介している。</p>
--